

グループホーム菜の花園

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102356		
法人名	医療法人社団豊和会		
事業所名	グループホーム菜の花園		
所在地	栃木県宇都宮市平出町1666-1 (電話) 028-660-7564		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】(平成20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	18人	常勤15人(うち15名兼務), 非常勤3人, 常勤換算17人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—実費 ・おむつ—家族持参 ・共益費—5,000円 ・水道光熱費—2,000円 ・教養娯楽費—100円/日 ・布団リース代—110円/日
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	入居金の返金なし
食材料費	朝食	410円	昼食 610円
	夕食	510円	おやつ 昼食代に含む
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月30日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2		3名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5	1名	要支援2		名	
年齢	平均 89歳	最低	80歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都宮東病院, 藤井脳神経外科, 新直井病院, 長谷川歯科, 石川外科, 村田整形外科, みやの杜クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、家族介護を経験した運営者の思いから開設された。ホーム名に冠された菜の花が似合うように整備された庭を囲むようにデイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所、当ホームがたっており、リビングの大きな窓から自然の季節感を感じられるようになっていく。地域の防災ネットワークに参画しており、玄関先には非常持ち出し袋があるなど有事の際の備えもしっかりとしている。管理者が看護師であることもあって、入居者それぞれのかかりつけ医と連携を図り、事業所として看取りも行っている。職員の担当制を取り入れており、また会議も兼ねたカンファレンスを月2回実施しており、職員の入居者への接し方、支援の仕方なども統一性が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果はカンファレンスで取り上げるなどして検討している。開設から6年目でこの一年で大きな変更点は少ないが、これまでに外部評価を踏まえて手すりやスロープの改善をしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は成果の項目は職員の意見を聞きながら管理者が自己評価を作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。地域への周知・理解の深め方を相談したり、昼食を一緒にとってもらったりしているが、運営推進会議を活かしてきれていないと考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪れたときなどに暮らしぶり等を報告したり、電話で相談したりしている。また請求書の送付の際に状況報告や写真を配布している。以前はホームで通院対応をしていたが、説明をしたうえで、家族に対応をお願いするようになって報告の機会が増えた。預かり金は原則的に行っていない。職員の担当制をとっており、担当職員が変わるときには家族に事前に知らせている。少なくとも月に1回は家族にホームに来てもらうようにしており、その際に意見等を言ってもらえるよう心がけている。家族会が年1回開催されている。家族からの要望等があったときにはカンファレンスなどで相談して対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、回覧板まわしなどもしている。周りは町工場や田んぼが多く民家は多くはないが、ホームで使う竹をもらったり、散歩などの際に挨拶を交わしたりしている。近くにある市民センターなども利用している。花や習字を教えに来てくれる方がいる。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人と人とのつながりのなかで、互いに支えあいながら人間らしく健康的で明るい共同生活を送れるように支援する」ことを基本理念とし、地域との関わりも踏まえた6項目の方針を定めている。その他に職員として大切にすることとして介護理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念は玄関に掲示され、事務スペースには「私らしく あなたらしく 共に歩く」と書かれた介護方針が掲示され行動指針も示されている。ミーティングも兼ねた月2回のカンファレンスや年2回程度の業務カンファレンスなどで話し合いながら理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、回覧板まわしなどもしている。周りは町工場や田んぼが多く民家は多くはないが、ホームで使う竹をもらったり、散歩などの際に挨拶を交わしたりしている。近くにある市民センターなども利用している。花や習字を教えに来てくれる方がいる。	○	開設から5年で地域の理解も徐々に深まってきている様子がうかがえる。入居者が地域の中での暮らしを実感できるよう、今後も地域の方々の付き合いを深めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果はカンファレンスで取り上げるなどして検討している。開設から6年目でこの一年で大きな変更点は少ないが、これまでに外部評価を踏まえて手すりやスロープの改善をしている。今回は成果の項目は職員の意見を聞きながら管理者が自己評価を作成した。	○	職員の意識を高めたり、意識あわせをすることに活かす意味でも、今後自己評価を実施する際には全職員で自己評価の過程に取り組むことに期待したい。

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。地域への周知・理解の深め方を相談したり、昼食を一緒にとってもらったりしているが、運営推進会議を活かしきれていないと考えている。	○	運営推進会議を通して地域とのつながりを強めたり、地域の福祉・介護課題を一緒に考え入居者が地域で生活しやすい環境づくりに活かしていくなど、運営推進会議の場を有効に活用していく方策を考えていくことに期待したい。また、市職員にも参加してもらえよう働きかけることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者やケアマネジャーが主に窓口となって、週に1~2回、市役所に顔を出して報告や相談をしている。介護相談員の派遣も受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が訪れたときなどに暮らしぶり等を報告したり、電話で相談したりしている。また請求書の送付の際に状況報告や写真を配布している。以前はホームで通院対応をしていたが、説明をしたうえで、家族に対応をお願いするようになって報告の機会が増えた。預かり金は原則的に行っていない。職員の担当制をとっており、担当職員が変わるときには家族に事前に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少なくとも月に1回は家族にホームに来てもらうようにしており、その際に意見等を言ってもらえるよう心がけている。家族会が年1回開催されている。家族からの要望等があったときにはカンファレンスなどで相談して対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動はないが、異動がある場合には同一敷地内事業所への異動になる。現在は、職員の多くが併設の小規模多機能型居宅介護と兼務している。職員の担当制をとっており、職員の交替があるときには職員間の申し送りを密にしている。新しい職員自身がなれるまで（一人夜勤は概ね半年経ってから）は周りの職員がカバーして入居者への影響がないよう配慮している。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の雇用形態に関わらず経験や資格に応じた研修に参加するようにしている。認知症介護実践研修などは交代で参加するようにしている。入居者の支援にあたって特別なことが出てきたときには、その都度学ぶ機会をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・全国のグループホーム協会に加入している。また近隣のグループホームとのネットワークも持っている。他事業所から2～3日の実習を受け入れたり、当ホームの職員を他施設での研修に参加させたりといった取り組みもしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申込があったときには、本人に何回かホームに来てもらい、ホームで過ごしてもらったうえで入居の決定をしている。入居当初は、本人が孤立してしまわないよう、また自分を出してもらえるよう働きかけながら徐々に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	無理強いをしないように配慮しながら、「ごはどうする？」といった本人の自主的な気持ちに働きかけるような言葉かけをしながら一緒に行うような雰囲気・場面づくりをしている。職員は昔の話を聞いたり、入居者から元気をもらっている。「共に歩く」ことを介護理念としている。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら希望を言うことが難しい場合には、家族からこれまでの生活の様子を聞いたり職員が本人の言動から察して本人本位の検討に努めている。職員の担当制を取り入れている。本人をより良く知するために家庭にお邪魔して介護者以外の話を聞いてきたりもしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を元に、月2回カンファレンスなどで職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。職員の担当制を取り入れており、担当職員とケアマネジャーの話し合いも行っている。また、家族と医療機関との意見交換の場を持って計画に反映させたりもしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標を3ヶ月に1回とし、月に2回のカンファレンスを行って定期的な見直しをするほか、本人の状況の変化があったときなどは随時見直しをしている。日常の細かな変更点は申し送りで職員間の周知を図っている。看護・介護・相談記録の記入方法に工夫があったり、特別な配慮が必要な方については個人のノートを別途つくるなどの配慮もされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員の担当制を取り入れており、管理者がフリーに動くことで担当職員が入居者の個別の要望に応えられる体制をつくるなど柔軟な支援に努めている。		

グループホーム菜の花園


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれの従来からのかかりつけ医での受診を支援している。以前はホームで通院付き添いをしてきたが、家族と一緒に介護をという意味で、説明をしたうえで基本的に家族が通院付き添いをする事になり、管理者がすべての入居者のかかりつけ医に行き調整をした。また、入院の際には担当職員が入居者の情報をつくらせて医療機関に渡すなど適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・医療機関・職員間で一人ひとりの希望を共有しており、重度化・終末期にかかる対応の同意書を交わしている。ホームで最期の時近くまでを過ごし、併設の小規模多機能型居宅介護事業所に転居した直後に看取った例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報記録スペースで保管している。個人情報に関わるものは基本的に契約者のみに開示している。本人に対する呼び方・接し方は気さくであるものの「赤ちゃん言葉」は使わないこととしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の担当制を取り入れており、管理者が介護業務に入りながら、本人の希望に沿った支援ができるよう努めている。一日の流れはあるが、起床時間もまちまちであったり、入居者の状況によっては台所のテーブルで皆とは別に食事を摂ったりと、一人ひとりに合わせた支援に努めている。	○	現在は職員のほとんどが小規模多機能型居宅介護との兼務であるが、入居者の状況等から勤務体系の変更も検討している。体制の変更も含め、今後も本人本位を念頭に柔軟な支援に努めていくことに期待したい。

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配業者を利用しているが、おやつや調味料などは週に1回程度入居者と職員で買い物に出かけたりしている。混乱しがちな入居者の支援をしながら職員も入居者と一緒に同じ物を食していた。庭先でバーベキューをしたり、郷土料理を作ったりと食での楽しみも取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制をとっており、少なくとも2～3日に1回は入浴してもらえるよう支援している。時間帯は13：00～16：00、19：00以降に入浴する方の支援もしている。仲の良い方同士で入る方がいたり、長湯の方、短い入浴時間の方など入居者それぞれに合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の無理にならないように、また本人のことに配慮しながら食事の準備、洗濯物たたみなどの家事を一緒に行うようにしている。月1回習字の先生を招いたり、月2回華道の先生を招いたり、ドライブに出かけたりと楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リビング続きでウッドデッキがあり、玄関を通らずとも外気に触れることができる。入居者自ら外出を希望することが少ないが、買い物やゴミ捨て、行事的な外出を企画することで外出の機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと鍵のないケアの実践に努めており、玄関、ウッドデッキへの出入り口となるリビングの掃きだし窓などに施錠せず、開放的な雰囲気をつくっている。職員の手が少なく、入居者が不穏になる夏場の夕方などに危険防止のために一時的に施錠することはある。		

グループホーム菜の花園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を実施している。ホームのある地区に地域の防災ネットワークがあり地域の方々とも連携している。地域で実施している防災訓練にも参加している。玄関に非常持ち出し袋を置いていたり、簡易トイレや非常食を用意しているなど防災に対する意識が高い。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認し、適切な量が確保できるように配慮している。摂取が少ない場合には医師と相談したり、食事以外に必要なカロリーが摂取できるようにしている。食材は宅配業者を利用しており、献立から栄養バランスやカロリーが分かるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の状況に合わせて、テーブルの高さを低くしたり、配置を変えたりしている。キッチンの横に食卓が置いてあり、リビングの横にテレビが置いてあるソファコーナーがあり、思い思いの場所で過ごせるようになっている。リビングからは花木が植えられた庭を望むことができ、季節感が感じられるようになっている。音や光、換気なども適切に配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳とフローリングを組み合わせた設えになっており、タンス、ベッド、イス、テレビなどが持ち込まれ、それぞれに特徴ある居室作りがなされていた。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。